

号のガバナー月信に記載されると思いますのでご覧ください。

最初の講演は上野バストガバナー担当で「国際奉仕と世界社会奉仕」というタイトルでした。その話の中で日産自動車社長のカルロス・ゴーン氏の卓話の一説を紹介しました。ゴーン氏は「経営者として自分が成功したとするならばそれは強い共感能力を持ちえたことにある。経営者は自分に馴染みのない立場に立ってみてどうすればいいかを考える力が必要になる」と言って日産自動車を建て直しました。ロータリーの奉仕活動にも通じるところがあるのではないかと思います。また、スバシクルカルニ氏の「私は今まで困難に立ち向かう人に対して手を差し伸べることにロータリアンとして喜びを感じておりました。しかし、今すべてを失い、ロータリーの奉仕を受ける立場になって、今まで私がロータリアンとして奉仕をしてきたことは本当に正しいことであったのだろうか？ 本当に困難にある人々の立場になって奉仕をしたのだろうか？と考えざるをえません」という言葉を話されました。上野バストガバナーは講演の中で「世界で起きている不幸を知り、表層ではなく対処療法でなく、原因を探り根本解決を目指す。奉仕の理想に結ばれた事業と専門業務に携わる人の世界的親交により国際間の理解と平和を生み出します。誰かがやるのを待つのではなく、自ら実行者となる道を選んでほしい」と講演のお話を結びました。

次に地区ロータリー財団委員長 上田巖氏「国際奉仕とロータリー財団との関わりについて」の講演がありました。

- ①世界社会奉仕(w c s)と国際奉仕との関係
- ②ロータリー財団の歩み
- ③財団への寄付金の行方

世界社会奉仕(w c s)と国際奉仕との関係の話ですが、国際財団活動資金(WF)、地区財団活動資金(DDF)の中から世界社会奉仕(w c s)として使用できるものがあります。ロータリー財団への寄付金の行方というレジメに記載されていますのでご覧ください。

マッチング グラント

ロータリークラブと他の国のロータリークラブ同志

が共同でプロジェクトを立ち上げ、R Iの資金を使うことができる。5,000ドル～15万ドルまでで、2万5,000ドルまでは随時申請ができるそうです。

次に国際奉仕活動のアンケート調査の集計報告がありました。レジメが出ておりますのでご覧になってください。

最後にグループ討議が行われ、第3グループでは現在多摩ロータリークラブがN P Oを通じ支援している、ペットボトルキャップ集め(10個で1円)で開発国への援助をするという話に話題が集まり、各クラブの方々が関心あり、グループで行ったらどうかとの意見があったとグループ発表で吉沢ガバナー補佐が発表しておりました。

最後に、「地区のアンケート調査によると、歴史の浅いクラブや会員数の少ないクラブ等、国際奉仕を行っていないクラブは時間をかけ、糸口を見つけて奉仕活動をしていただきたい」との齊藤ガバナーの講評で国際奉仕委員長会議を終了しました。拙い報告で申し訳ございませんでしたが、これで終了させていただきます。ありがとうございました。

